

授業科目	老年看護学概論	単位数	1 単位	講師名	看護教員	
		時間数	15 時間			
学年	1 学年		履修期	前期から後期		
授業の目標	1. 老年期の老化に伴う身体的・精神的・社会的・発達段階的特徴を学ぶ。 2. 老年看護の基本を学ぶ。					
授業内容 (授業計画)	1. 超高齢社会の統計的輪郭 1) 家族構成とニーズの変化 2) 生活習慣・生活様式 3) 高齢者の健康の特徴 4) 生理的老化と病的老化 5) 受療の状況 2. 老年期の理解 1) 老いを生きるということ（多様な価値観） ①ライフサイクルからみた高齢者 ②加齢と老化 2) 加齢に伴う身体的、心理的、社会的側面の変化 3) 老年期の発達と成熟（加齢への適応） ①喪失体験と獲得体験 ②サクセスフルエイジング ③スピリチュアリティ ④老年期の生活 4) セクシャリティ 2. 老年看護の役割 1) 老年看護の特徴 ①パワーレスネス ②エンパワメント ③ICF モデル（国際生活機能分類） 2) 老年看護における理論、概念の活用 ①離脱理論と活動理論 ②選択最適化保障理論 ③ニード論 ④セルフケア理論 ⑤コンフォート理論 ⑥ストレングスモデル 3) 地域包括ケアの推進 3. 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護 1) 家族の形態と機能の変化 2) 介護家族への援助 4. 老年期のヘルスアセスメント 1) ヘルスアセスメントの枠組み ①身体的健康 ②生活の自立状態 ③心理・社会的健康 ④環境 ⑤生活史 2) 高齢者総合機能評価（CGA） 3) 身体に加齢変化とアセスメント ①廃用症候群 ②神経系 ③運動系 ④感覚器系 ⑤循環器系 ⑥血液・造血器系 ⑦免疫系 ⑧呼吸器系 ⑨消化器系 ⑩代謝系 ⑪泌尿器系 ⑫内分泌系 ⑬生殖器等					
	評価方法 1. 筆記試験（60%） 2. 課題レポート（40%）					
注意事項	1. 地域包括ケアと家族の看護は、弥栄診療所で見学と講義（4 時間）を行う 2. 老年期のヘルスアセスメントは老年看護学援助論Ⅱで活用するので、各自ノートに整理すること					
教科書	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 （医学書院） 2. 国民衛生の動向・厚生指標（一般財団法人 厚生労働統計協会）					
参考図書	地域包括ケアシステム 厚生労働省 報告書					

授業科目	老年保健	単位数	1 単位	講師名	看護教員
		時間数	15 時間		
学年	2 学年		履修期	前期	
授業の目標	1. 高齢社会の保健・医療・福祉について理解する 2. 高齢者の権利擁護、意志の尊重について学ぶ				
授業内容 (授業計画)	1. 高齢者の生活の質の保障 1) ノーマライゼーション 2) 自立支援 2. 高齢者の生活に関する保健医療福祉制度 1) 医療保険制度と介護保険制度 ①要介護、要支援の認定と区分 2) 高齢者の人権に関する制度 3) 地域包括ケアシステム 3. 高齢者の社会参加 4. 老年看護の倫理 1) 高齢者差別の防止 2) 高齢者虐待の防止 3) 安全確保と身体拘束 4) 高齢者の権利擁護（アドボカシー） 5) 高齢者の意思決定への支援 5. エンド・オブ・ライフ・ケア 1) エンド・オブ・ライフケアの概念 2) 生き切ることを支えるケア 3) 高齢者の尊厳を守るための支援 ①人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン ②アドバンスケアプランニング 4) 末期段階に求められる援助 6. 生活、療養の場における看護 1) 療養の場の特徴と高齢者の暮らし ①医療施設 ②介護保険施設 ③地域密着型サービス、居宅サービス 2) 長期入院・入所高齢者の看護 3) 看護と介護の協同と連携 4) 多職種連携・チームアプローチ 7. 高齢者に必要な災害時の看護				
評価方法	筆記試験（80％） 課題レポート（20％）				
注意事項	在宅看護論、社会保障・社会福祉と関係する内容が多いため、合わせて学習すること				
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学（医学書院）				
参考図書	「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」2015 厚生労働省 「高齢者の意思決定プロセスに関するガイドラインー人工的水分・栄養補給の導入を中心として」2012 日本老年医学会				

授業科目	老年看護学援助論Ⅰ (健康生活と予防)	単位数	1 単位		講師名	看護師
		時間数	30 時間			
学年	2 学年			履修期	前期	
授業の目標	高齢者の生活機能を整えるために必要な知識を習得し基本的な援助方法を学ぶ。					
授業内容 (授業計画)	(10)	(10)	(10)			
	1.摂食・嚥下障害 1)摂食嚥下過程の 5 期モデル 2)加齢による病態と要因 3)アセスメント ①食事環境 ②摂食嚥下能力 ③嚥下障害のスクリーニング検査 4)予防と援助 2.低栄養 1)加齢による病態と要因 2)アセスメント 3)予防と援助 3.経管栄養法 1)援助の基礎知識 2)経鼻経管栄養法 3)胃瘻法 4.口腔ケア 1)援助の基礎知識 2)援助の実際 【演習】 1. 口腔ケア 2. 嚥下評価、誤嚥予防 3. 経管栄養法 (胃瘻・経鼻)	1.基本動作と環境 1)起き上がり動作と座位姿勢の保持 2)立ち上がり動作と立位姿勢の保持 3)移乗動作 4)歩行 5)基本動作・姿勢を支える環境 6)転倒・転落の発生の要因と防止 2. 高齢者の機能と評価 1)高齢者総合機能評 (CGA) 2)日常生活活動(動作)の評価 ①ADL ②IADL③パーセルインデックス④カツインデックス⑤FIM 3)障害高齢者の日常生活自立度 ＜寝たきり度＞判定基準 3. コミュニケーション 1)高齢者とのコミュニケーションと関わり方の原則 2)コミュニケーション能力のアセスメント 3)コミュニケーションを促す要素と阻害要因	1. 排泄 1)高齢者の排泄ケアの基本 2)排尿障害アセスメントとケア 3) 排便障害アセスメントとケア 2. 清潔 1)清潔の意義 2)清潔のアセスメント ①清潔ケア実施上のリスク 3)清潔の援助 ①更衣動作 ②入浴の援助と危険性 ③負担に応じた援助 3.活動と休息 1)高齢者と生活リズム 2)高齢者に特徴的な変調 3)生活リズムとアセスメント 4)生活リズムの調整 4.褥瘡のケア 1)褥瘡発生要因 2)褥瘡リスク評価ツール ①褥瘡因子危険評価 ②ブレイデンスケール 3)褥瘡予防 4)褥瘡の評価 ①NPUAP ②DESIGN-R 5)スキン-ケア			
評価方法	筆記試験					
注意事項	1. 老年看護学概論で学習した高齢者のヘルスアセスメントについて復習しておくこと					
教科書	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 2. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版 (医学書院)					
参考図書	特記なし					

授業科目	老年看護学援助論Ⅱ (経過別看護)	単位数	1 単位	講師名	看護教員
		時間数	30 時間		
学年	2 学年		履修期	前期	
授業の目標	1. 老年期に起こる健康障害の特徴とその看護の基本を学ぶ。 2. 高齢者の生活機能の視点からアセスメントを行い、看護過程を展開する。				
授業内容 (授業計画)	1. 様々な健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護 1) 介護予防とヘルスプロモーション 2) 急性期 3) 慢性期 4) 回復期 5) 外来を受診する高齢者の看護 6) 検査を受ける高齢者の看護 7) 薬物療法を受ける高齢者の看護 2. 症候のアセスメントと看護 1) 発熱 2) 痛み 3) かゆみ 4) 脱水 5) 嘔吐 6) 浮腫 7) 倦怠感 3. 疾患のある高齢者の看護 1) 脳卒中 2) 心不全 3) 糖尿病 4) 慢性閉塞性肺疾患 5) がん 6) パーキンソン病・パーキンソン症候群 7) インフルエンザ 8) 肺炎 9) 骨粗鬆症 10) 骨折 ①脊椎圧迫骨折 ②大腿骨近位部骨折 4. 認知機能障害のある高齢者の看護 1) うつ 2) せん妄 3) 認知症 ①認知症の分類 ②症状 ③認知機能および生活機能の評価 ④認知症看護の原則 5. 高齢者のリスクマネジメント 6. 看護過程の展開				
評価方法	1. 筆記試験 (80%) 2. 課題提出 (20%)				
注意事項	老年看護学概論で各自がまとめた「老年期のヘルスアセスメント」を活用すること				
教科書	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院)				
参考図書	生活機能からみた老年看護過程 第3版 医学書院				